

ふるさと再発見

— 『御所替一件』 「悲願」の島原復帰 —

1774年（安永3）6月、
下野国（現 栃木県）宇都宮藩主・
松平忠恕に島原への「所替」の
命が下りました。兄の忠祇が島
原から宇都宮へ移されて25年、
再び島原の地に戻ることなつ
たのです。

今回紹介する資料には、江戸
で下された所替の命や、所替に
際しての掟書、あるいは引継ぎ
相手、すなわち前の島原藩主で
あり、かつ次の宇都宮藩主でも
ある戸田氏側とのやりとりなど、
この時の「殿様の異動」につい
ての事蹟が記されています。

この資料は、所替の具体的な

様子はもちろん、所替を命じら
れた忠恕の心情もうかがい知る
ことができるという点で貴重な
ものです。

忠恕は「旧領」、すなわち以
前の所領であった島原に移るこ
とを「大望」「大慶」あるいは
「本望に至る」という思いであり
がたく拝命しています。江戸時
代に各地で数多く行われた所替
も、状況によって当事者の思い
は悲喜こもごもでしたが、この
時の所替は忠恕にとって「喜」
であったことが分かります。

「旧領復帰」の思いを募らせ
た背景には、忠恕が宇都宮藩主
であった12年ほどの間に、水害
による不作や、幾度かの領民の
暴動などの困難に直面したこと
もあったのかもしれない。

旧領復帰を果たした忠恕です
が、戻ってきた島原でも、20年
足らずの1792年（寛政4）
「島原大変」という未曾有の困
難に遭遇し、同年4月27日、悲
運の人生を終えました。

（松平文庫学芸員 吉田 信也）



『御所替一件』（松平文庫蔵）

クローズアップ Close Up!

杉谷陶芸サークル



今回、紹介するのは「楽しく作
ろう」をモットーに陶芸活動に取
り組んでいる杉谷陶芸サークルの
皆さんです。

このサークルは岡本正英さんの
指導のもと、毎週火曜日と木曜日
の9時から16時まで活動を行っ
ています。会員は60代前後を中心に
30人程が登録。会員の中には10年
以上も活動を続けている人もいら
っしゃいます。

会員さんたちは、お互いそれぞ
れ得意な分野を教え合いながら、
和気あいあいの中、作品づくりに
挑戦しています。また、丹精込め
た作品は市美術展覧会に出展する
ほか、12月に開催の杉谷公民館ま

つりにも展示しているそうです。

指導者の岡本正英さんは「陶芸は
土の感触を楽しみながら、時間を忘
れて没頭できるのが魅力です。作品
づくりよりも、先ずは会員さんの健
康維持とストレス解消が大事。手先
を使うので老化防止に役立ちます
し、皆さんが仲良く楽しく、活動で
きる環境づくりに努めています」と
話してくれました。

会員さんにお話を聞くと「作品づ
くりは時間を忘れて夢中になれます。
出来上がった作品を見た瞬間は言葉
に表せないほど嬉しいんです。形や色
付けなど出来栄はさまざまですが、
自分のオリジナル作品を作れるところ
が良いですね」と話してくれました。
サークルでは、年度途中での募集
は行っていないそうですが、見学は
自由とのことなので、興味がある人
は一度見学してみたいいかがでしょ
うか。

問い合わせ先 杉谷公民館 ☎22
31

